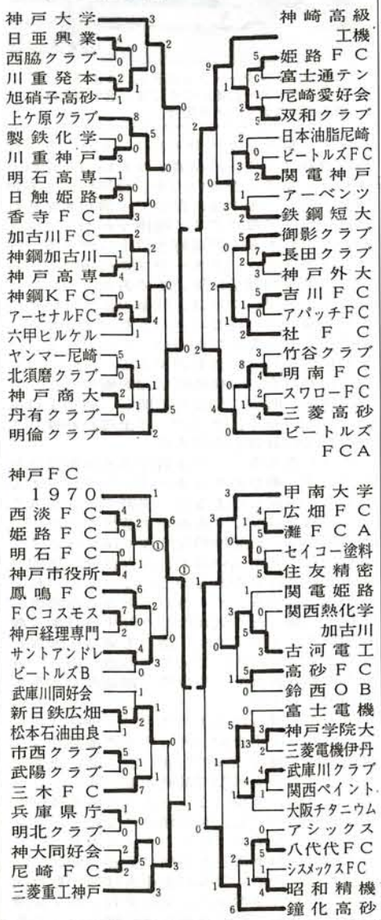
天皇杯兵庫県大会終了
関西大会へ甲南大ほか3チームが出場

第66回天皇杯全日本選手権兵庫大会は4月6日開幕、7月20日まで、神戸総合運動公園サブ、神戸大学、旭硝子高砂、神戸外大、川重発本、神鋼加古川、新日鉄夢前、日触姫路、三菱電機伊丹弘陵高校の各グラウンドで、下記の組合せにより行われた。上位4チームが関西大会に出場する。試合時間は、関西大会出場決定戦は90分とし、その他は全て80分とし、勝敗の決しない時はP.K戦を行った。その結果、明倫クラブ、西淡FC、神崎高級工機、甲南大学が関西大会への出場権を勝ち取った。

第66回(61年度)　天皇杯兵庫県大会



神戸市社会人リーグ開幕各部組分け

昭和61年度神戸市社会人リーグ戦は、4月1日から1部、2部(A)(B)、3部(A－E)特設と、4部門、91チームが参加して市内各グラウンドで開幕した。

1部は60年度、三冠王に輝いた兵庫朝鮮が兵庫県リーグに昇格して抜けたため混戦になる見通しである。

2部はリーグ入れ替え戦により赤塚山、神戸税関が加入したため、昨年以上のレベルアップが期待される。

3部は上位進出をねらうチームと、サッカーを楽しんでいるチームとに、分れているという感じもなきにしもあらずである。

特設ブロックは今年はがんばって、来年は3部にあがるようにして下さい。

棄権試合をなくすこと、グラウンド周辺の清掃に留意して、気持ちよく試合の出来るように協力しましょう。

昭和61年度神戸市社会人リーグ　組分け

1部	2部(A)	2部(B)	3部(A)
ビートルズ(A)	赤塚山FC	神戸税関	鶴甲一丁目
KF C(A)	KR & AC	川重神戸	御影クラブ
アーセナルFC	灘FC (A)	兵庫教員(C)	武陽クラブ
川重発本	市役所(B)	須磨クラブ	ビートルズ(C)
KFCユース	神大同好会	神戸スポーツマン	FCバム
神高クラブ	北須磨クラブ	神戸高専	鈴高OB(A)
双和クラブ	甲山クラブ	ビートルズ(B)	神戸グリーンフォックス
KF C(B)	あしかびFC	アシックス	NTT神戸
六甲ヒルケル	長田クラブ	滝川クラブ	太陽神戸銀行
兵庫県庁	マックエルフ	神戸ドクターズ	是則運輸
			神戸オフサイド

3部(B)	3部(C)
住友ゴム	三菱電機
富士電機	KF C(C)
関電神戸	富士通テン
星陵クラブ	大森廻漕店
阪神EFC	タカラブネ
東灘クラブ	灘FC(B)
鈴西OB	県職神戸
川鉄阪神	八代学院クラブ
神戸経理学校	三星堂
御影工Jr	KF C(D)

3部(D)	3部(E)	特設
コリアンタイガース	神鋼本社	三菱FC
川重西神戸	アパッチFC	神戸北クラブ
御影工OB	ホワイトソックス	朝銀信組
スワローFC	ストライパーズ	シンエイ
灘生協	ガラクターズ	上組
FCなかよし	ロジエ	神戸アーベンツ
三ツ星ベルト	板宿FC	国鉄鷹取
川西倉庫	川鉄建材	育英クラブ
水道局	鈴高OB(B)	白鶴
I.B F C	舞子台クラブ	かつおぶし

県下社会人都市対抗大会
神戸市代表　尼崎に惜敗

昭和60年度県社会人都市対抗大会は、西宮協会の主管で、兵庫県協会傘下10都市協会の代表を集めて、3月9日、市立西宮高校、3月16日、西宮市民グラウンドで3月23日、神戸市立中央球技場で、開催された。

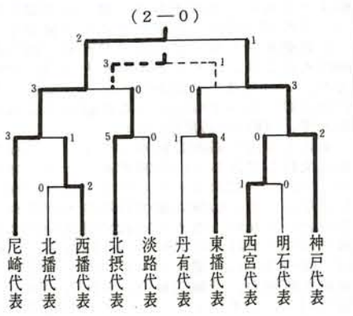
神戸市代表は、今年も優勝を目標に、がんばったが惜しくも決勝で尼崎代表に、やぶれ連勝はならなかった。

＜神戸市代表チーム＞

監督　岡本　勲（三菱重工）**主将**　松岡泰典（三菱重工）**コーチ**　森川和俊（アーセナルFC）**主務**　幸田卓己（神戸FC）

選手　松岡泰典・桑田瑞夫・大和　徹・小林匡樹・前田正司・久保正夫・馬場豊彦（以上、三菱重工）小西利彦・中村栄二・吉田茂之・大石哲也（以上、神戸FC）小島秀行・大野真一・天王寺谷慶吾・塩形洋二・阿河雅也（以上、神戸市役所）安堂　輝・徳山裕雄（以上、双和クラブ）

昭和60年度兵庫県社会人都市対抗大会　結果



神戸市社会人運営会議予定
次回　9月18日(木)

10月16日、11月20日、12月18日、1月22日、2月19日、3月12日、3月19日。いずれも18時30分から王子登山研修所。社会人リーグに参加している各チームの代表者が必ず一人出席して下さい。

本紙は右記の店にもあります

有宏スポーツ
東灘区御影本町4丁目11-9　☎078(412)2601
阪神御影駅南側西へ30m

塩谷スポーツ
兵庫区大開通7丁目5-26　☎078(576)0870
高速大開駅東

MEN'S SHOP MAC
三宮センター街店　☎078(391)0895
プレザーショップ、トーアロード店　☎078(391)0896
ドルチェ・マック、センター街店　☎078(332)0141

ヤノ運動用品
本店　中央区三宮町3-8-1　☎078(391)1121
ファイブ店　中央区三宮町2-7-8　☎078(331)4578
六甲、長田、白川台、名谷、西明石、高砂、姫路、岡山

スメラ
湊川店　湊川プラザ2階　☎078(511)2234
鈴蘭台店　ダイエー西側　☎078(592)0470

加茂 トアロード店
中央区三宮町3－8－8　☎078(392)0234
国鉄元町駅南側東へ100m

サッカーショップ PKF
中央区下山手通3丁目3-10　☎078(332)5519

ワールドスポーツ
東灘区深江北町4丁目7－3　☎078(453)2186
阪神深江駅北側信号西

個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、1年分として70円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。

〒650　神戸市中央区八幡通2－1－10
三木記念神戸市立スポーツ会館内
神戸市サッカー協会　☎078-232-0753

なお、数人分まとめて申し込まれる場合は割引がありますのでご連絡ください。

Juchheim's
Für große und kleine Feinschmecker
Köln·Frankfurt am Main
Seit 1892
ユーハイム

月刊
神戸のサッカー
1986　3・4月号
発行所　神戸市サッカー協会
神戸市中央区八幡通2-1-10
三木記念神戸市立スポーツ会館内
〒651　☎(078)232-0753
発行人および編集人　一北　四郎
神戸市灘区上野通6丁目3－12
〒657　☎(078)861-3100
毎月1回10日発行　購読料1部50円

神戸市選抜ユースチーム　マルセイユ国際ユーストーナメントに出場

神戸市より、マルセイユ国際ユース・トーナメントに神戸市代表チームを派遣したいとの要請をうけた兵庫県協会は、高砂理事長を団長に、市高校選抜チームを編成し、3月26日から4月4日まで、マルセイユに遠征、4戦して2勝1分1敗の好成績をあげ、フランスをはじめ、各参加国代表との親善に多大な成果をあげ、国際交流への新しい道をひらいた。

3月26日(水)

17：20　大阪空港ロビーに集合し、市関係者や家族の見送る中、19:20パリ行きのJALにて出発、成田～アンカレッジ～ロンドン～パリを経由してマルセイユ空港には現地時間の14:00に到着、15:00過ぎに宿舎に着いた。

選手は大会規定で1966年8月1日生まれ以下となっており、中心となる高3の選手が、大学進学などで色々苦労もあったが、1月中旬に、何とかベストの選手団を決定した。その後、何回も練習会を行い、3月16日からは集中して、練習会、合宿でチームワークとコンディションの調整をし良い状態で出発した。昼食後、バスで海浜公園へ行き、軽い練習をした。選手は比較的元気で、30時間の長旅や8時間の時差による不安は解消した。

3月28日(金)

9：00～11：00　トレーニングのため大会会場のガニースタジアムへ。グラウンドは予想に反し、クレー。芝を期待していた選手達は少しガッカリ。しかし土のグラウンドは、神戸に有利。物は考えよう。13：00～16：00市のご好意で市内観光。17：00～19：00マルセイユ市の歓迎パーティー。参加各クラブが、プレゼントを市に渡す。神戸も、神戸市長より託されたメッセージとあじさいの花の額を高砂団長より渡す。選手達も英語で各国選手となごやかな交流をしていた。

3月29日(土)

今日より競技開始。9：00より監督会議。11：30より代表者と主催者の昼食会とミーティング。14：15より開会式。参加8チームの選手が一人一人紹介されるし、参加チームの国旗が国歌とともに掲揚され、国際大会の雰囲気が盛り上がった。

17：30　第1戦、0対0　W・チルバーグ

前半、立ち上りは緊張して動きが堅く押され気味、左から打たれた強シュートが、右ポストをそれてひやりとしたが、徐々に動きにリズムがもどり、小丸を中心としたハーフ陣がよく動き、バックスも、本街、山中が身体を張って守り、その後は決定的ピンチは少なく、互角のゲーム展開で前半を終了。

後半、ハーフの球だしを早くし、FWを深く走らせる作戦でゲームを進め、チャンスも再三あったが得点を上げるに至らず、終了2分前に逆襲からのピンチをGK橋本が好セーブ、0－0の引き分けでタイムアップ。

夕食はこの日の健闘を喜んで高砂団長がマルセイユ名物のブイヤベースをごちそうすると言われ、市の中心街のレストランへ。その席に、昨日のパーティーでお目にかかった駐仏日本総領事の今川氏も出席して下さり、色々とフランスの料理の事や街の状況などを教えていただいた。

3月30日(日)

14：00　第2戦、1対0ハンブルグ

前日同様、立ち上りは緊張からプレーが堅い。名門S・Vハンブルグと戦うとの意識が強く作用した。15分過ぎから落ちついてきてペースをつかむ。小丸156cmの小さな身体で広範囲によく動いて、ゲームをリード、相手の守りをしばしば混乱させた。

後半、バックスから出たボールを小丸が継ぎ、ハーフライン近くから飛び出した松井へ縦パスが通り松井が独走、195cmの巨漢GKの足下を抜いてシュート。初のゴール。15分頃、小丸が接触プレーで目の上を負傷し退場したが傷は軽くすぐに復帰した。リードしてやや堅くなったが、バックスとGKの健闘で守り抜いて終了の笛。大会前には考えもしなかった初勝利に思わず目頭が熱くなる。団長以下全員が互いにガッチリ握手、グラウンドでは神戸の選手が誇らしげにガッツポーズ。

22：30　第3戦、0対1マルセイユ

60分ゲームとはいえ、ナイターでしかもダブルの2試合目と悪条件が重なって不安があったが、選手は気力一杯でゲームを展開した。

O・マルセイユは選手全部がプロ又はプロを目指す若者であり、代表チームは1部リーグの人気クラブである。フランス代表のティガナもこのクラブで育ったとのこと。プレーは、スピードにあふれ、全員が休まず動き、攻守の切り換えが早い。日本のサッカーが学ぶべき多くの長所を備えていた。よく守り抜いたと思った27分、不運なファウルからフリーキックを与え、ヘディングシュートを決められた。暗い照明でボールがよく見えない選手が多い神戸の弱点をつかれた。

後半、橋本を出場させ、守りを堅め、反撃を試み、互角の試合展開となる。なんとしても1点をと選手は死力を尽した。0－1のままでタイムアップを迎えたが、負けたとはいえ、選手の表情には、疲れ切っているのによく戦えた満足感が見られた。この結果、一次リーグ戦を終ってA．Bグループの対戦成績と順位は次の通りとなった。

〈Aグループ〉

Sハンブルグ	0(0－0)0	Oマルセイユ
Wチルバーグ	0(0－0)0	神戸
Wチルバーグ	2(1－1)1	Oマルセイユ
Sハンブルグ	0(0－0)1	神戸
Wチルバーグ	0(0－0)0	SVハンブルグ
Oマルセイユ	1(1－0)0	神戸

①チルバーグ②マルセイユ③神戸④ハンブルグ

〈Bグループ〉

S・Tマルグリット	0(0—1)2	I・K・F.エテボリ
D・アバディン	0(0—0)1	B・トリノ
I・K・F.エテボリ	2(2—0)0	B・トリノ
S.Tマルグリット	1(1—1)1	D・アバディン
S.Tマルグリット	0(0—0)0	B・トリノ
I・K・F.エテボリ	4(2—0)0	D・アバディン

①エテボリ②トリノ③マルグリット④アバディン

3月31日(月)

9：00　7－8位決定戦

D・アバディン　3(2—!)1　S・Vハンブルグ

10：30　5－6位決定戦

神戸　6(4—0)0　S・T・マルグリット

対戦相手が地元のマルグリットとわかり、戦いにくいのではと思ったが、神戸の戦い振りを知っている観客が神戸により多くの声援を送ってくれ、気楽に戦うことが出来た。

始めから神戸の優勢で、10分に沓掛が得点、以後、土橋、金、藤田が次々に得点した。後半にも沓掛、金が得点して快勝。後半10分に藤村が負傷で退場し、小丸が交代出場したが、観客が彼のプレーに期待して、大きな拍手と声援が起った。5位のカップを受賞した。

14：00　3－4位決定戦

O・マルセイユ　2(1—0)0　B・トリノ

16：30　優勝戦

I・K・Fエテボリ　4(2—0)2　W・チルバーグ

優勝戦はスタートから、あざやかな攻撃をするエテボリが見事なゴールを2つ決め前半を終る。後半早々に3点目を決めた直後からチルバーグ猛反撃して2点を返す。その後も白熱したゲームとなり両チーム気迫のプレーをみせ、終了直前にエテボリが4点目を決めて優勝を決定的にした。表彰式で神戸ガフェアプレー賞を受賞し、大きな拍手が起った。5位の好成績とあわせての受賞に全員喜びをかみしめた。今回の成功の陰には、神戸市のバックアップがあった上に、ユーハイム体育スポーツ振興会、アシックス、日本協会技術委員会など、多方面のご支援があったことを深く感謝申し上げます。**監督**　一北四郎

団長　高砂嘉之(県協会理事長)　**総務**　佃幹夫　**監督**　一北四郎　**コーチ**　山根由雄〈**選手**〉橋本尚(北須磨)　藤本光信(赤塚山)　内山勝吾(御影工)　文箭達三(御影)　本街直樹(滝川第二)　伊藤裕(明石北)　山中英勇(御影)　石塚一博(福崎)　土橋一雅(志知)　小丸俊幸(三洋電機)　藤田善浩(滝川第二)　松井信治(北須磨)　金相煥(御影)　沓掛秀樹(伊丹北)　藤村卓司(小野)　安田憲弘(神戸弘陵)

第8回兵庫県都市対抗選抜少年大会 淡路優勝

2位 伊丹、3位に神戸入賞

第8回兵庫県都市対抗選抜少年大会は3月29日と30日に神戸市立ポートアイランド球技場で、各都市代表16チームが参加して行われた。神戸からは選抜A、B2チームが出場して健闘した。

第8回兵庫県都市対抗選抜少年大会評

兵庫県協会少年委員長　師田二郎

盛大に行われた第8回県少年都市対抗大会も、今回から日帰りではなくて、参加者全員が一泊して研修会をやりながら、交流をはかるということになった。

一部地域の人から技術講習会と同じようなことを、年に二回もやることはないという、意見も出たが、県域が広くて、各地域の少年サッカー関係者が一堂に会することが少ないので、年に何回か、こういう機会があってもよいと思う。各都市協会の少年委員長各位は、県少年委員会の議事報告を、各都市協会の、加盟チームの人に相談してからの意見を言ってほしいと思う。

大会は県下13地区から、16チームが参加して行われ、成績は下記のとおりである。

淡路が一位になったが、2位から4位までの、伊丹、神戸B、尼崎もよく戦った。西宮、東播等の従来、上位にくるチームがめずらしく下位へ下ってしまった。

3月29日(土)夜の研習会では、選手達によって、第10回全日本少年サッカー大会の、兵庫県中央大会の抽選が行われ、指導者は、神戸市協会少年委員会の技術委員、滝川第二高校の黒田和生先生をかこんで、サッカー談議に花が咲き、夜のふけるのを忘れるぐらいであった。

大会の準備、設営、運営では、とくに神戸市協会の少年委員の皆さんに大変世話になり、感謝している。

第8回兵庫県都市対抗選抜少年大会成績

一次リーグ　3月29日(土)

	1 組	尼崎	明石	竜野	姫路	勝点	得点	失点	点差
1	尼崎		○1−0	○2−0	○1−0	6	4	0	4
2	明石	×0−1		○1−0	○3−0	4	4	1	3
3	竜野	×0−2	×0−1		○2−0	2	2	3	−1
4	姫路	×0−1	×0−3	×0−2		0	0	6	−6

	2 組	伊丹	加西	神A	東播	勝点	得点	失点	点差
1	伊丹		○2−0	×2−3	○3−1	4	7	4	3
2	加西	×0−2		○1−0	○1−0	4	2	2	0
3	神戸A	○3−2	×0−1		△2−2	3	5	5	0
4	東播	×1−3	×0−1	△2−2		1	3	6	−3

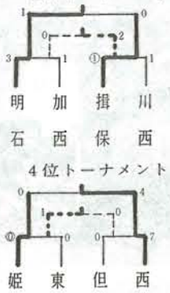
	3 組	神B	揖保	芦屋	但馬	勝点	得点	失点	点差
1	神戸B		○1−0	○4−0	○12−0	6	17	1	16
2	揖保	×0−1		○1−0	○4−0	4	5	1	4
3	芦屋	×1−4	×0−1		○6−0	2	7	5	2
4	但馬	×0−12	×0−4	×0−6		0	0	22	−22

	4 組	淡路	川西	三木	西宮	勝点	得点	失点	点差
1	淡路		○1−0	○4−0	○4−0	6	10	1	9
2	川西	×0−1		○1−0	○4−0	4	5	3	2
3	三木	×1−4	×0−1		○6−0	2	2	3	−1
4	西宮	×0−12	×0−4	×0−3		0	0	10	−10

決勝トーナメント　3月30日(日)

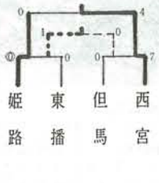
1位トーナメント

2位トーナメント



3位トーナメント

4位トーナメント



最終順位

1位淡路	5位明石	9位芦屋	13位西宮
2位伊丹	6位揖保	10位竜野	14位東播
3位神戸B	7位川西	11位三木	15位姫路
4位尼崎	8位加西	12位神戸A	16位但馬

＜神戸選抜A＞　監督　永浜和紀　伊窪吉和　選手　朝　晋、藤本　勲、大場淳司、上村英明、吉田雅広、武田英俊、米村基宏、山本浩司（千歳）玉田満正、西藪祐伴、高橋亮輔、隅田克重、河畠裕次郎（つつじが丘）　有吉智規（木津）三宅朝則、岡部浩一郎（夢野）　宮本創二（成徳）

＜神戸選抜B＞　監督　天野泰男　村田文夫　選手　笠原　治（鵯越）宮崎大輔、小林寿夫、宮本　優、位田真規、久住拡寛（高倉台）田村良介、富田周平、中村征司、那須健司、祖川　治、北田伸行（神戸FC）春　正一郎、中嶋英雄（みさき）伊勢崎レオ、久治克己、（ひよどり台）秋田俊司（虹ツ子）

に合ったものを見つけ出す。コーチがもっとも恐れるのは若くして燃えつきる選手の出ることであるなど、興味ある研習が続いた。

◀講師の祖母井氏の熱弁

◀実技は市内の少年選抜を指導してもらった

全国選抜中学生大会 関西選抜準優勝

全国選抜中学生大会は3月27日から30日まで東京都三菱養和会グラウンドでAブロックに、東海、中国、関西、北信越、北海道、トレセンF。Bブロックに、東京、関東、九州、東北、四国、トレセンfが入ってリーグ戦を行い、両ブロックの1位が決勝戦をたたかった。関西選抜は5年前の準優勝から、毎年のように好チームといわれ、優秀選手にも数多くのプレヤーが選ばれていたが、1次リーグの段階で涙をのんでいた。今回5年ぶりの決勝進出であったが、東京選抜の前に敗れ優勝はならなかった。

第2回大会で兵庫の単独チームでの優勝が1回あるが、更によいチームを作り、優勝および関西のレベルアップを目標として今後とも努力していかなければならないと思う。

兵庫からは、久保（明石・高丘）鈴木（鈴蘭台）原田（千歳）の3名が参加し、惜しくも優秀選手には選ばれなかったが、3名ともレギュラーとして全試合に出場し、関西選抜の決勝進出に貢献した。(コーチ　大和川洋一)

全国選抜中学生大会結果　（関係分）

＜Aブロック＞1次リーグ

関　西　1−0　トレセンF
関　西　0−0　北信越
関　西　1−0　北海道

＜決勝戦＞

関　西　0 (0−1 / 0−1) 2　関　東

神戸市少年サッカー指導者の会第5回研修会開催

神戸市少年サッカー指導者の会では第5回研習会を、3月21日(祭日)、御影工業高校で、祖母井秀隆（うばがいひでたか）氏を招いて開催した。

昭和57年1月10日に清水フットボールクラブの堀田哲爾代表を講師に第1回研習会を行ってから、58年1月23日には愛媛大学の田中純二先生、59年2月25、26日と広島、大河FCで、日本代表選手、木村和司選手を育てた浜本敏勝先生、60年2月17日には清水市少年団の綾部美知枝先生と招いて勉強してきた。

本会は指導者講習会を修了した方、少年指導を志ざしている人を対象に、親睦と、よりひろい知識を育てて、ともすれば狭い地域にとらわれがちな視野を広げて、現状を把握しようと研さんをかさねている。

本年は祖母井先生を招いて、10時から実技、13時から講義の課目で開催した。先生は大阪体育大学卒業後、西ドイツに留学、ドイツの少年チームの指導をしながらケルン体育大学で、コーチライセンスを取得、現在、大阪体育大学の講師、同大学の二軍チーム北摂けまり団の監督をされ、60年度は念願の関西リーグ入りを果たされた。

午前中の実技では、神戸市少年リーグ選抜の選手を使って指導の方法を教えられたが、例えばヘディングの基本を練習するにしても3人の真中の人をゴールキーパーにしてその人の頭をこしてボールを投げて、もう一人の相手に、ヘディングをさせれば、シュートとキーパーの両方の練習が、狭い場所で、しかも多ぜいでできる。

ドイツの少年は勉強は学校で、スポーツはクラブでと、区別した生活の中で、あまり束縛しない、個性をのばすという、クラブの指導でサッカーをしている。キックにしても好きなようにけっているうちに、その場の状況

株式会社 モルテン
広島／東京／大阪／名古屋／福岡／札幌

日本サッカーにルネサンスは起こるか？（27）

枚方FC　近江　達

この連載は、雑誌サッカー・ジャーナルに連載されている枚方FCの指導者、近江達氏の随想をサッカー・ジャーナルのご好意で転載しております。

「日本サッカーの発展のためにはルネサンスにも匹敵する人間性の解放が必要である」と、近江氏はいうが……。

実戦でものを言うのは何か？

陸軍も日清日露戦争まではよかった。
その後、教育制度が軌道にのってから
駄目になった。　司馬遼太郎

第二次大戦では連合軍からみると、日本軍で最も勇敢だったのが兵士、いちばん頭が良かったのが下士官、将校は駄目。中でも最低は作戦を担当した参謀だった。

なぜかというと、日本軍の攻撃作戦はいつもセオリーどおりだった。だから、こういう地形や状況だとセオリーではこの作戦をとることになっているので、日本軍はきっとこう来るに違いないと待ち構えていると、必ずそのとおりにやってくる。その上不思議なことに、失敗してもまた同じことをやる。向うにしてみると、全部読めるのだからこんな戦いやすい相手はない。日本軍の参謀は頭がどうかしているのじゃないか、というのである。

だが常識からいって、どこの軍隊だって参謀が低能ということはあり得ず、日本の参謀も全員選り抜きの秀才揃いだった。でも、そうだとますます話に合点がいかなくなる。

戦前、職業軍人の将校は陸軍士官学校の卒業生で、陸軍大学校に入れるのは陸士を優秀な成績で出たものに限られていた。陸大で戦術戦略教育を受けて卒業すると、軍を指導支配する要職につくという制度が確立していたが、なかでも参謀には特別優秀なトップクラスでないとなれなかった。

陸大のトップといえば東大のそれに比肩し得る。その超エリートがなぜ、敵に笑われるような作戦しか立てられなかったのか。

それは、彼らが抜群だったのはあくまでもテストや演習での話にすぎず、実戦はそれとはかなり違うものだったからである。受験術の得意な才子がいくらこの作戦はセオリーどおりだと胸を張っても、実戦はテストと違い、相手がこちらの予測どおりに動くとは限らない。それどころか、相手もこちらの裏をかこうと智恵をふり絞ってくるのだから、敵の動向はもとより、こちらの出方をどう読んでいるか、いつも考えておかないといけない。それが計算に入ってないような作戦など敗戦のもとで、実戦には通用しない。

またどんなに綿密に計算しつくした心算でも、実行してみると、誤算があったり、意外なハプニングに出くわしたりすることが珍らしくないので、臨機応変の対処能力が優れてないといけない。だから実戦で役立つのは知識ではなく、陸大の成績は全く関係ない。結局、勝つために必要なものを決して見逃さぬ鋭敏な観察力、情報収集力、分析力と読み、駆け引き、アイディア、いつやれば成功するか無理かといった判断力、決断力など、臨機応変の頭脳の働きやしなやかなセンス、つまり、広い意味での創造性が実戦でモノを言うのである。

昔も今も変らぬ学校秀才と評価選抜法にまつわる弊害で、テスト上手は実戦でも凄腕に違いないと抜擢されたわけだが、その結果、創造性に欠点のある連中が出世して軍の首脳部を固めてしまったために、巨大な陸軍全体が次第に柔軟性、創造性を失ってゆき日本を敗北に導いたのだ。怖しいことである。

知識や方法の注入だけでは実力はつかない

戦術とは何を言うのか。かってクラーマー氏は、「もっている技術や能力をどう使うか、それを最も有効適切に使うのが戦術だ。長所を生かすように戦え」と教えたが、外国の一流プロの試合を見ていると、たしかに彼が言ったとおりで、なるほどと思う。一流プロともなると全員が多種多様多彩な高度な技術能力をもっているので、上手下手の差よりもむしろその使い方や組み合わせ、配分などの良し悪しが勝敗を左右することが多く、レベルの高い試合ほどセンスや智能の戦いといった感じになる。

もっとも、私のように直接子供たちを指導し育ててきたものから見ると、クラーマー氏の定義は大人かそれに近い一人前の技能と、かなりの知識を身につけた選手向きで、それ以下の選手、とくに小学生、中学生の場合は、もっと具体的に一連のプレーを取りあげて、「あのときはここが悪かった。こういうときはこうすべきだ」という具合に説明指導するのが普通だろう。それはさておき、いったい戦術というものは、試合運びや技術の使い方、行動の仕方などを教室の授業のように教えて練習させ試合でやらせさえすれば、しっかり身につき実力がついていくものだろうか？

そうは思えない。いや、つくことはつくだろう。つきはするけれども、それだけでは先進国の一流選手のようにはなれないと思う。

これは何も独断や偏見ではない。というのは、そのようにして教育された日本選手よりも、まともな教育など受けたことがなく遊びのサッカーで大きくなって日本に来たブラジル二世の方が戦術的に優れている、という事実を、われわれはこの目で見ているからである。教育というものは、それを受けた者の方が、受けたことのないものよりも優れていて当然であり、そこに教育の価値がある。逆なら教育なんて無用の長物になってしまう。

私の経験から言うと、古来、軍略は天賦の才といわれてきたように、資質が戦術的能力やセンスに関与するところはきわめて大きい。でも、だから教育は無効だとあきらめてはいけない。巧く改良さえすれば、やはり教育はきわめて有益であり強力だからである。

では、どう改良すればいいのか？

ヒントは遊びのサッカーの中にある。

立体性、創造性発達に有利な草サッカー

サッカーは教師いらない
セルジオ越後

△第13回ウインター・フェスティバルより
世界のサッカーに追いつくには、選手の主体性、創造性が大きくモノを言う。

なぜ、草サッカーやストリートサッカー育ちが教育サッカー出身者よりもいろんな点で優れていることが多いのか、最初私にも不思議だったが、その後、自分で子供たちをそれに近い方法で育ててみて理由がわかってきた。むろん、日本人の野球好き以上にサッカー好きな国民性とか、スターやプロに憧れて、といった環境的因子は除いてである。

本来、スポーツとは、仕事のようにいやでもやらないといけないというものではない。いやならやらなくてもいい、したがって、自発的に行われるべきものである。プレーはすべて自分の意志で積極的に頭を働かせて、自分で状況判断して局面を打開し、勝利を目指して進んでゆく。そうやって上達し熟練していくべき性質のものである。

そうしたスポーツの本質である自発自立という点で、遊びのサッカーはピッタリである。

また、前記したように、実戦でモノを言うのは知識ではなくて広義の創造性なのだが、創造性には、自発性の発生源が深いほど、プレーの自由度が高いほど、より活発に活動できるという性質があるので、これまた、教えられるからやる、やらされるとか、指導者、上級生に頼ったり気がねしたりする日本式教育学習サッカーよりも、誰にも命令干渉されないで自分で自由に工夫できる遊びのサッカーの方が好都合で、主体性、創造性やスキルが向上しやすい。

そのため彼らは幼少のうちに、理屈は知らなくても、上手な戦い方からその要領やコツまで身体で覚えこんでしまう。ここが重要なポイントで、実戦型で基礎がしっかりしているおかげで、年長になると大人の戦術戦略もすぐに身につくし、楽に使いこなせる。こうして大きくなるにつれてどんどん力がついていくので、日本選手との間に大差が開いてしまうわけである。日本の指導者は他の教育同様、知識や方法の注入に明け暮れ、指令管理のもとに心身を鍛えあげれば成果が上り優秀な選手ができると信じて疑わなかった。

モンブランのメインテーマ "スピードサッカー"
基本のフレーを徹底的に追求し、機能性を第一に考えたサッカーシューズ
markam® & Libero®
親しまれるサッカーウェア younger®
リベロメイン06
標準小売価格¥9,800
MONTBLANC
リアル・スポーツの追求
モンブラン株式会社
神戸・東京・福岡